

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881  
 宗教学者日本バプテスト連盟総務部

<原発課題班コラム>

鈴木牧人 (姪浜教会)

福島第1原発事故後、通行規制が続いていた福島県富岡町-双葉町間の国道6号(14.1km)は3月15日から規制が解除された。現在、この道をたくさんの車が往来している。付近の放射線量は、決して低い値ではない。知人が手持ちのガイガーカウンタで測定したところ、富岡町で3-4μSv/h、原発付近で5-8μSv/hだった。本来なら通るのがはばかれるところだが、トラックなどに見れば、茨城方面から相馬、宮城に向かうのに、迂回すれば3-4時間も余計にかかってしまう。このため、通らないではいけないのである。

福島県の2015年2月の有効求人倍率は1.51倍だった。これは全国平均より高い数値である。しかし、求人の内訳をみると、震災関連とみられる建設業などが多く、その他、飛びぬけて求人が多いのが(この求人が倍率を飛躍的に上げているのだが)、「保安関連の職業」というものだった。HPで業務内容を確認してみると、原発関連の業務であった。そのように、これまで規制されていた道が開通し、景気が回復してきたりと、一見すると福島は復興に向かっていくように見える。しかし、一つひとつの状況をよく見てみると、そこには様々なカラクリがあったりする。現状としては、未だ解決されていない様々な問題があり、放射能被ばくの危険があり、先の見えない状況があるのである。

ある方からこんな話を聞いた。自分たちが福島に留まり続けていることについて、割り切って納得づくで福島に留まっているように思われていないだろうか。確かにどんなことがあっても福島から離れないと心に決めた方もいる。しかし、多くの人は、未だにどうすればいいのかわからないという思いの中、迷ったり、悩んだりしているのだと思う。はっきりとした答えも出ない中、結果として、福島に留まっているという方のほうが多いのではないだろうか。もし福島県外に移るとなれば、住居や仕事の問題がある。また、知り合いもたくさんいる中でよほど覚悟を決めなければならない。その覚悟するための根拠がはっきりとしない。自分一人が県外に移りたいと思っても、家族が反対すればできない。そんな複雑な状況の中、周囲から「何で出ないの?」と言われることもあるし、「あの人は覚悟決めたんですね」と結論づけられてしまうこともある。そんな簡単な話ではないのだということを知ってほしいと語っていた。

写真は走行中の国道6号線と車中の線量測定



<APBAid理事長ビクター師の間安と被災地の分かち合い>

井形英絵

日本バプテスト連盟はアジア太平洋バプテスト連合(APBF)に加盟しています。その支援部門であるAPBAid(エイピービーエイド)は、震災後の早い時期から今に至るまで、祈りとご支援を続けて下さっています。

この3月には、昨年1月よりAPBAid理事長になられたビクター・レンベス牧師(インドネシア)が、仙台で開かれた「国連防災会議」にお仕事で来られた折、今の被災地の状況や連盟の支援活動を知りたいと問い合わせして下さいました。合間を縫っての時間でしたが、現地支援委員会の金丸真先生、金子千嘉世先生にご協力いただき、被災地の現状と課題を分かち合っていました。津波被災地では場所によって再生に格差があり、復興住宅が今から3~5年後にしか建たない地域もあること、たとえ復興住宅に移動できても、経済的に、また人のつながりにおいて「自立」の厳しさが待っていることが語られました。放射能被災地では、こどもと大人の健康被害が数字によっても顕著になってきていると思われること、あらゆる分断が家族や地域に起こり、故郷を失い将来が見えない方々の不安は尽きず、事故収束はほど遠く、未だ「被災中」であることを伝えました。ビクター師は、「それは知らなかった」と幾度か感想を述べながらメモをとり、「このことはAPBFの仲間たちに伝えます」と言われました。私たちは資料の一つとして「震災4年を数える祈り」をお渡しすることにしました。(英訳版は事務局が保有しています)。

ビクター師にお会いする度に、主にあつてひとつとされている有り難さを思います。2011年9月に震災支援のための「国際円卓会議」が連盟事務所で～これもAPBAidのコーディネートによる～開催された際、ビクター師はインドネシア代表として出席し、続いて被災地を訪問して下さいました。その会議の中で、牧師であったビクター師の祖父が日本軍によって殺されたことを知りました。その同じビクター師は神学校で宣教師であった木村公一先生に学んだとのことでした。

このビクター師を通してまた被災地の今が伝えられて行きます。アジア・太平洋にも、日本を、被災地を、続けて心に留め祈って下さる方々がいることを感謝します。



原発事故から4年が経ちました。未だ原発事故は、収束から程遠い状況にあります。改めて、福島の現状をきちんと見つめ、福島に住む方々の生の声を丁寧に聞き取っていくことの大切さを思わされます。

<現地支援委員会より>

現地支援委員長 金丸 真

新年度が始まり、震災から5年目という難しい時期に入りました。目に見える「ガレキ」は片付き、地域によっては建物や道路も新しく完成し、震災は目に見えづらくなってきました。放射能も目に見えないために、深刻な被害が続いていても「大丈夫だ」と言い聞かせながら日々を過ごす人も多くなってきたように感じます。5年目の疲れもあるのだと思います。

これから重要なのは、「わたしたちは目に見えるものではなく、目に見えないものに目を注ぎます」(Ⅱコリント4:18)という言葉を生きていくことだと思わされます。被災地での疲れを考えると、生活再建、放射能被害と向かい合い続けるというのは、大変な忍耐と勇気、信仰が必要です。だからこそ、私たちの支援活動は個人としてではなく、教会として、また現地教会の協力の中で励まし合い、また全国の諸教会の皆様からの祈りに支えられて、自らを吟味しながら行っていきたくて願っています。私たち自身が迷いつつも主イエスによって担われながら被災地に通いつけているその姿が、被災された方々に主イエスを証しすることになると信じています。新年度の歩みも、なお一層お祈りとお支えをお願いいたします。私たちも精一杯仕えてまいります。皆様から感謝して。

2014年度震災募金は左記の通り届けられました。

感謝してご報告いたします。

2015年度も引き続きお祈りをお願い申し上げます。

東日本大震災被災地支援委員会

募金種類	2014年目標額	2014実績	募金件数
国内	14,000千円	15,413千円	344件
国外	5,000千円	4,574千円	5件
合計	19,000千円	19,988千円	349件

<2月、3月「国内募金」募金者(受付順、敬称略)> 118名(口)の方々から届けられました。心から感謝申し上げます。

小寺政子、有田ゴスペルクワイア、札幌、関西黎明、東大阪、関西黎明、福岡、道後、恵、中野、下関、調布、西南女学院大学・短期大学部、西南女学院大学幼稚園、日立、久留米、目白ヶ丘、久保祐子、徳島、鹿児島、関西地方教会連合、富里、横須賀長沢、西南学院中学校、西南学院高等学校、福岡地方連合女性会、所沢、今治、百合丘、花小金井、古賀、企救、飯塚、北九州地方連合教会音楽委員会、那珂川、門司港、中野、秋田、福岡城西、鳥栖、篠栗、福岡南、立田裕美、岡山、人形げきや おたこ組、調布、富士吉田、井上昭子、宮城学院高等学校2年菊組、東大阪、直方、筑紫野南、東京北、神戸新生、八王子めじろ台、天草中央、宮崎、広島、防府、横浜戸塚、堺、浦和、湘南台、大阪ブロック女性会一日修養会、大村古賀島、東山、上尾、西原新生、春日原、高崎、品川、別府国際、姪浜、藤沢、三鷹、福岡、小倉、伊集院、宮城学院高校2年石戸谷、相模中央、筑紫野二日市、大分、洋光台、西川口、筑波、青梅あけぼの、恵泉、調布南、府中、市川八幡、野方、百合丘、相浦光、横浜ニューライフ、若松、伊都、菊池シオン、香住ヶ丘、豊橋、高須、若松、神戸、神戸伊川、赤塚、古賀、下関、愛の国保育園、西南学院大学額栄会被災地支援特別委員会、鹿児島、志村、大井、茗荷谷、山形、大宮、那覇新都心、岸本禎子、仙台震災支援コンサート